

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第8回理事会 開催日: 11月19日. 出席者: 藤本会長 他 33 名.

1. 第2回日ソ物理化学シンポジウム開催の件
来年開催の標記シンポジウム予算 200 万円について、シンポジウムに関係する会社より、出費願うかもわからないが、なお検討してみる事になった。

2. 昭和43年10月分予算実績対照表の件 承認

3. 昭和44年度予算の件

事務局案により、調整段階にあり、詳細な検討を始めていく。

企 画 委 員 会

第8回委員会 開催日: 11月14日. 出席者: 吉崎委員長, 他 10 名.

1. クライマックス・モリブデン社資金の件
従来の賞とは受賞期を別にし、文献の対象は“鉄と鋼”論文に限らず鉄鋼に関する著書や各社技報掲載論文を含めることとする。

専門分野については規程には明記せず、実際には特殊鋼特殊鋼が主となるように運営する。その旨理事会へ報告することになった。

2. 鉄鋼技術国際会議開催につき大蔵大臣に対し、指定寄付会に関する指定申請の件

国際会議寄附金に対する免税処置のために申請することを承認。

3. 来年度予算編成方針について

予算案について会計分科会で詳細検討した後に、具体的に検討することになった。

編 集 委 員 会

第9回和文会誌分科会 開催日: 11月8日. 出席者: 荒木主査, 他 11 名.

1. 論文審査報告

17件報告があり掲載可13件, 修正依頼3件, 返却1件.

2. 鉄と鋼第55年第1号掲載論文は

展望2件, 論文4件, 研究速報1件を選定.

第55年第2号(論文集)は論文13件を選定し, 討論会集録を合わせて掲載.

3. 論文の依頼, 勧誘について

技術資料3件, 解説2件の依頼をすることとなった。
勧誘論文は, 現在まで50件あった。

4. 依論文賞選考に関する内規改正について

さらに検討して案を作る事になった。

5. 抄録小委員会について

抄録の利用度調査のためアンケートをとることになり
次回までに事務局で草案を作成することになった。

第8回出版分科会 開催日: 11月6日. 出席者: 佐藤主査, 他 11 名.

1. 「鋼の熱処理について」

1) 原稿に関する問題点処理状況の報告および今後の
処理方法などを検討

2) 目次の手入れ

3) 刊行期…44年9月. 校正方法…初校, 再校を丸善と執筆者, 三校を丸善と編集委員会, 索引…再校で執筆者記入, 丸善で整理した後編集委員会で承認の形をとる.

2. 「厚板マニュアル」について

堀川, 池田, 周藤各委員より2, 3の修正点を除き,
このまま出版してよいとの査読報告があつた。

資 料 委 員 会

第5回委員会 開催日: 10月30日. 出席者: 草川委員長, 他 9 名.

1. 図書を購入する際は, 将来の見通しについて購入することにした。たとえば, 原子力, 海洋開発, 材料関係など

2. 国際会議の proceedings については“日外ドクメント”に依頼し, 必要に応じて, 購入することにした。

3. Translation B.I.S.I. を来年度購入する際に, 3年間購読した結果をイギリス鉄鋼協会に報告し, 来年度より, 改善してもらうようにする。

4. 図書カード頒布については, カード1枚についての価格が10円であるので他の印刷所とも比較してからカードの頒布案内を提出することにした。

5. “鉄と鋼”UDC分類については, 協会側の意見をまとめてドクメンテーション協会に提出することにした。

共 同 研 究 会

条 鋼 部 会

第27回線材分科会 開催日: 11月1, 2日. 出席者: 有沢主査, 他 44 名.

1. 工場操業状況調査報告(43年7月~9月)

2. 品質向上, 能率向上に資する問題について

材料素角変更によるビッグコイル化, ミルヤード運転室の統合, 整備検査ラインの改造, ロール径一部増大, ループはね上げ自動化, 捲取方法改善, 加熱炉における重油添加剤の使用, ドラッグコンベヤーコイル端末噛込み防止板新設, クーリングベッド先端揃えなどの実施例が報告された。

3. 管理操業上における各部内連絡方法

工場全体の連絡方法を報告した会社と線材工場内の連絡方法を報告したものがある。

4. ユニバーサルカップリングの構造, 連結方法

図面による構造説明と連結方法の説明

5. 加熱炉および圧延工程における鋼材温度の測定

アンケート形式による加熱, 圧延工程における鋼材温度測定結果のまとめである。

計 測 部 会

第26回秤量分科会 開催日: 11月7, 8日. 出席者: 中沢主査, 他 49 名.

1. コンベヤスケールの精度について

コンベヤスケールの精度管理状況と保全基準、コンベヤスケールの誤差要因（コンベヤの諸条件、スケール自身の諸元変化、計量条件など）調査、コンベヤスケールの標準仕様と設置基準、コンベヤスケールの性能試験装置、コンベヤスケール購入仕様書(例)、新設コンベヤスケール一覧表につきメーカー、ユーザー各社から資料の提出があり討議が行なわれた。

なお今回までに当分科会に提出された資料を6社で分担して報告書を作成することとなった。

2. 新秤量機の稼働実績調査その他

ロードセル式混銑車軌道秤量機、混銑クレーンスケール、鋼管検尺秤量機、分塊鋼片秤量機、条鋼結束自動秤量機、トラックスケール、電子管式スクラップスケールなどについて発表が行なわれた。

検査装置の仕様と活用状況)の各項目にわたり資料が提出され、質疑応答ならびに討論が行なわれた。

標準化委員会

第2回 JIS 中空鋼原案分科会 開催日: 11月15日. 出席者: 高岡主査, 他9名.

会議事項

第1回 JIS 中空鋼原案分科会でだされた各業界の本JISを改正するに当たつての問題点, 要望に従い, 鉄鋼メーカー側で第1次原案素案を作成したので審議を行なった. 席上提起された問題点にもとづいて, 素案を鉄鋼メーカー側で修正し次回更に検討することになった。

秋の叙勲者

11月3日に発表された「秋の叙勲者」のうち本会関係では次の方々が叙勲されました。

勲二等旭日重光章

橋本宇一君(評議員, 前金属材料技術研究所長)

勲三等旭日中綬章

塩沢正一君(名誉会員, 前会長, 早大名誉教授)

勲三等瑞宝章

中村隆一君(評議員, 日立金属社長)

松下長久君(名誉会員, 前会長, 元日本鋼管副社長)

なお明治百年記念の外人叙勲者のうち本会関係の叙勲者は次の通り

勲三等瑞宝章

Dr. Edgar C. Bain(名誉会員, U. S. Steel 社副社長)

鉄鋼生産設備能力調査委員会

第9回 ホットストリップ分科会 開催日: 11月8, 9

日. 出席者: 吉田主査代理, 他48名.

1. 操業度調査について

昭和43年7月から9月までのホットストリップ操業度調査報告が参加全工場から行なわれた。

2. 疵および形状の品質管理について

ホットコイルの品質管理体制, 熱延ラインの品質管理項目, 異常品の処理(連絡ルート, 計器異常時の処置, 品質管理関係帳票, 管理用機器(仕様および保守状況, コンピューターの品質管理への活用状況, 疵および形状

新入会員氏名 (昭和43年10月1日~31日)

維持会員

神田産業(株)

正会員

小沢三千晴 川崎製鉄(株)技研

野崎 努 //

樺山 慎 日本砂鉄鋼業(株)

西村 富夫 (株)不二越

坪田督之助 (株)鉄原

杉峯 正明 矢作製鉄(株)

藤田 正和 東英電子工業(株)

関本 靖裕 日立金属(株)

北川 和夫 金沢大学

大坪 勲 早稲田大学

古川 徹 新潟大学

安藤四郎 大阪産業大学

学生会員

浦川 智志 京都大学工学部

盛山 博一 //

外国会員

John Crerar (U.S.A.)

Library

E. J. Dann, Jr. (U.S.A.)

C. A. Scheide- (U.S.A.)

mantel

Turhan N. Mutlu (Turkey)

Laurence (U.S.A.)

S. Darken

Pohang Iron & (Korea)

Steel Co., Ltd.

Ziad El.Sherbini (Egypt)

Abdul Hameed (West Pakistan)

Antonio Pimenta (Brazil)

de Padua Neto

A. R. Resenfield (U.S.A.)

G. T. Hahn (U.S.A.)

H.G.P. Wilsdorf (U.S.A.)

Walter S. Owen (U.S.A.)

Yorihiro Murata (U.S.A.)

Techint Administration (Italy)

Div. Compagnia Technica

Inter-Nazionale

第3回 “電熱化学工業の現状と将来” 講演会案内

主催 電気化学協会電熱化学委員会

日時 昭和44年1月27日(月) 13:30~16:30

会場 蔵前工業会館講堂(5階)

講演 1. 電気製銑の現状と将来
2. 電気製鋼の現状と将来

東京大学工学部教授 松下 幸雄君
日本鉄鋼協会専務理事 田畑新太郎君